記載 KをCの部分体とし、deCとする、
dか K上作図可能であるとは、Kの元たなから出発にて、加減棄除と平才根を取る操作を有限回くりかして d か得られることだと定める、□
例 √2 ヤ ± λ = ± √1 ヤ √1+√5 な Q上作図可能である。

√元 はQ(元)上作図可能である

Q,b,ceKのとき、Qx²+bx+c=0の解はK上作回可能である 」

問題3-1 ろ5が Q上作図可能なことを示せ. □

注意 本質的に正五角形の作別可能性! □

注意 W=5s +1 かっ W⁵-1 = (W-1)(W⁴+W³+W²+W+1)=0 よ), W⁴+W³+W²+W+1=0. 問題 2-2(4)の結果より, メ⁴+ス³+ス²+ス+1は Q上 既約 な多項式である. 問題 3-1 は本質的に「加減乗除と平方根のみを使って方程式 メ⁴+ス³+ス²+ス+1=0を解け」という問題とみなされる。

条件 W+W+W+1=0, Re W>O, Im W>O で W は一巻に特徴付けられる.

 $\boxed{1} \quad \mathsf{d} = \mathsf{W} + \mathsf{W}^4, \quad \mathsf{\beta} = \mathsf{W}^2 + \mathsf{W}^3 \quad \mathsf{b} \, \mathsf{a}, \quad \mathsf{D} \, \mathsf{n} \, \mathsf{b} \, \mathsf{b}, \quad \mathsf{d} + \mathsf{\beta} = -1 \quad \mathsf{T} \, \mathsf{a} \, \mathsf{n} \, \mathsf{b}$ $d\beta = (\omega + \omega^4)(\omega^2 + \omega^3) \xrightarrow{\omega^5 = 1} \omega^3 + \omega^4 + \omega + \omega^2 = -1, \quad \text{when } d \geq \beta$

方程式 $\lambda^2 + \lambda - 1 = 0$ の解である、 $d = \omega + \omega^4 = \omega + \overline{\omega} \in \mathbb{R}_{>0}$ なので、 $d = \frac{-1+\sqrt{5}}{2}$, $\beta = \frac{-1-\sqrt{5}}{2}$, $\beta = \frac{-1-\sqrt{5}}{2}$, $\beta = \frac{5+\sqrt{5}}{2}$

□ W+W4=dとW·W4=1より, WとW4は方程式μ2-dμ+1=0の 解である. Im $\omega > 0$ より, $\omega = \frac{d + \sqrt{d^2 - 4}}{2} = \frac{d + \sqrt{4 - d^2}i}{2}$.

これで、のは有理数から出発して、加減垂除と平方根をとる操作を有限回 くりかえすことによって得られることがわかった。つまり、ひは作図可能である。 □

注意 以上の方法はそのままらりの場合(問題3-2)にも使える。 日

追記 問題3-1 は本質的に

4次方程式 X4+X3+X2+X+1=0を 2次方程式たちに 帰着して解け という問題に等しい、これを以下のようにして解くこともできる。

「 $\chi^4 + \chi^3 + \chi^2 + \chi + 1 = 0$ 」は「 $\chi + 0$ かつ $\chi^2 + \chi + 1 + \chi^{-1} + \chi^{-2} = 0$ 」と同値である。以下、 $\chi + 0$ と仮定する。

 $y = x + x^{-1} \ \xi x$

 $\chi^2 + \chi + 1 + \chi^{-1} + \chi^{-2} = 0$ は $y^2 + y - 1 = 0$ と同値である、

 $y=x+x^{-1}$ は $x^2-yx+1=0$ と同値である.

以上より、 $\chi^4 + \chi^3 + \chi^2 + \chi + 1 = 0$ の解法は,連立方程式

$$\begin{cases} y^{2} + y - 1 = 0 & -- 1 \\ \chi^{2} - y \chi + 1 = 0 & -- 2 \end{cases}$$

の解法に帰着できることかわかる、

①の解の全体は、
$$y = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}$$
.

 $y^{2}+y-1$ $y^{2}-4=-(y+3)=-\frac{5\pm\sqrt{5}}{2}$

りかい与えられたときの②の解の全体は、スニッナーリケー4.

問題 3-2 517 か Q 上作 図可能なことを示せ、 □ ← かなり非自明、

で(これに関連した問題をすると後にしか小課題に出す予定)

 $|\psi_{\lambda}|_{C_{1}} \left\{ \omega_{0}, \omega_{1}, ..., \omega_{15} \right\} = \left\{ \omega_{1}, \omega^{2}, ..., \omega^{16} \right\} = \left\{ z \in \mathbb{C} \middle| 1 + z + z^{2} + ... + z^{16} = 0 \right\}.$

ゆえに、do,d,は方程式 k2+K-4=0の解になる.

ゆえに、 xi, xi+4 は m2-pin+pi+1=0の解になる.

4 $\omega_{\lambda} + \omega_{\lambda+8} = \chi_{\lambda} \ \tau^{2} \wedge \tau^{3} \ \omega_{\lambda} \omega_{\lambda+8} = 1 \ (\lambda=0.1,...,7).$ たとえば $\omega_{0} \omega_{8} = \omega \cdot \omega^{1b} = \omega^{17} = 1.$ ゆ之に、 $\omega_{\lambda}, \omega_{\lambda+8}$ は $\omega^{2} - \chi_{\lambda} \omega_{\lambda+1} = 0$ の解になる.

以上によって、い。このも含む以の全体が有理数から出発して四則演算と二次方程式を解くことの有限国のくりかえして作られることがわかった。特にいは作回可能である。

注意 $\sigma(\omega) = \omega^3$, $\sigma(\alpha) = \alpha$ ($\alpha \in \mathbb{Q}$) をみたす体 $L = \mathbb{Q}(\omega)$ の自己同型 $\sigma(\alpha)$ 存在することを示せる、 (ヒント: $\mathbb{Q}(\omega^k) \cong \mathbb{Q}[x]/(1+x+\cdots+x^{16})$, k=1,2,...,16) このとき、 $\{\sigma^k(\omega)|k=0,1,...,15\} = \{\omega^k|k=1,2,...,16\} = \{z \in \mathbb{C}|1+z+\cdots+z^{16}=0\}$ で この集合は $\mathbb{Q}(\omega)$ の \mathbb{Q} 上での 基底に \mathbb{Q} る($1+x+\cdots+x^{16}$ の \mathbb{Q} 上での 験的性より). このことを使うと、前ページまでの計算を簡略化できる、

たとえば、 $W_k = \sigma^k(W)$, $d_k = \sum_{k=0}^7 \sigma^{2k+k}(W)$, $\sigma(d_k) = d_{k+1}$, $d_{k+2} = d_k$ より、 特に, $\sigma(d_0d_1) = \sigma(d_0)\sigma(d_1) = d_1d_0 = d_0d_1 \times \sigma$ の作用では、 d_0d_1 は不変になる、 d_0d_1 は W の べきたちの $8^2 = 64$ 個 9 和になるので

$$d_0d_1 = \sum_{k=0}^{15} C_k \sigma^k(\omega), \quad C_k \in \mathbb{Z}_{\geq 0}, \quad \sum_{k=0}^{15} C_k = 64$$

しかし、エレがントでない季朴な方法で、dod1=-4を示す経験も重要である。

 $Y_{k} = \sum_{\bar{\Lambda}=0}^{1} \sigma^{8\hat{\Lambda}+k}(\omega), \ \sigma(Y_{k}) = Y_{k+1}, \ Y_{k+8} = Y_{k} \perp 1, \ \sigma^{4}(Y_{k}Y_{k+4}) = Y_{k}Y_{k+4}.$

これに、かならか用させると、 8~8~4 = βをけ、

 $W_0W_8=W\cdot W^{1b}=W^{17}=1$. これに C^{h} を作用させると、 $W_{k}W_{k+8}=1$. 以上によって、前々ペーシ までで略した計算がすべて埋まった。 T

以上を見すぎてしまう前に自分で計算することを楽しんでほしいです! 特に数学を教える仕事に興味がある人は色々計算してあてとよい! 数学の研究でも素朴及計算が重要である!